

木材を運ぶために建設された森林鉄道は、林業界や山村社会に大きな変化をもたらしました。日本初の森林鉄道である「津軽森林鉄道」に関連した遺構群及び関係資料群は、2017年度の「林業遺産」に選定されました。今回選定されていない遺構も含めて、多様な魅力を紹介します。

津軽半島には、津軽藩が禁伐として保護した場所や、河川を使った運材に適さなかった場所にはヒバの美林が大量に残っていました。青森大林区署は、1899年から官行斫伐事業(国直営の木材生産事業)を開始しますが、雪橇や流送に頼った運搬方法では限界がありました。そこで考案されたのが、大量輸送を可能とする森林鉄道の建設でした。1906年から工事が開始され、1908年に蟹田(今泉の一部区間)が開通し、1909年には起点を青森貯木場として喜良市間までの全長67kmの津軽森林鉄道の幹線が開通しました。支線を含む総建設延長は283kmに及びま



内燃機関車にけん引された運材列車(金木営林署) 撮影時期:1953~67年と推定
東北森林管理局蔵



「林業遺産」に選定された「片刈石ヒバ木橋」
(2つの橋のうち1つは完全な状態の橋)



日本森林学会による

日本の林業遺産を知ろう!

第21回 わが国初の森林鉄道「津軽森林鉄道」遺構群及び関係資料群(青森県)

一般社団法人日本森林学会林業遺産選定委員 国立歴史民俗博物館

しばさき しげみつ
柴崎 茂光



現在の金木貯木場跡



往時の金木貯木場 撮影時期:1953～67年と推定
東北森林管理局蔵



喜良市川支線沿いに鎮座する山の神を祀った神社



「林業遺産」に選定された「小田川ゲーター橋」



相ノ股隧道跡



津軽森林鉄道遺構の保存活動に尽力する伊藤さん
(左)と柳澤さん(右) 一七つ滝にて

す。ただし戦後になると効率的なトラック運材が優勢となり、1967年に最後の運行を終えます。

2019年9月に津軽地方を訪問しました。2日間の調査に同行して下さったのが、地域の暮らしについて教育・ガイド活動を行っている「かなぎ元氣村」の伊藤一弘さん(65才)です。まず向かった先は金木中学校・金木高校。グラウンドを含む広大な敷地は、知る人ぞ知る金木貯木場跡地です。貯木場にヒバの丸太が埋め尽くしていたという話を伺い、往時の活況ぶりが容易に想像できました。

貯木場近くには、山の神を祀った神社があります。実は、鳥居の眼前を金木西貯木場連絡線が横切っていました。毎年12月12日に山の神祭りの祭事が行われており、昭和40～50年頃までは、職員に加えて製材所の従業員や大工も集まって、盛大だったそうです。鳥居脇には石柱碑が建立されていますが、製材工場を経営していた伊藤さんの曾祖父が1937年に寄進したものです。安全な

輸送や、業界の繁栄を祈る関係者の思いが伝わってきます。

金木町東部にある小田川支線跡の林道脇の笹藪をかき分けて進むと、眼前に大きなコンクリート製の大きな橋が突如姿を現しました。「林業遺産」に選定された「小田川ゲーター橋」です。沢の下から見上げると、枕木も残っていることが確認できました。

喜良市川支線・相ノ股線に建設された相ノ股隧道跡にも足を運びました。伊藤さんが小学校・高校生の時には、この隧道周辺が遠足のコースでした。隧道周辺にはシルト質の白い土壌が広がっていますが、当時の児童は食器を洗う洗剤の代用品として、この土をお土産に持ち帰ったそうです。残念ながらこの隧道は2018年に崩落し、現在は入口しか見ることができません。

2日目は、津軽半島西側の小泊地方を訪問しました。この日は、「小泊の歴史を語る会」会長で、津軽森林鉄道遺構群の保存活動も行う柳澤良知さん(80

才)も同行してくれました。向かった先は小泊海岸林道片刈石支線跡に残る木橋遺構です。現存する数少ない木橋で、2017年に「林業遺産」に選定された「片刈石ヒバ木橋」(長さ13.5m、高さ4.5m、現地での簡易計測)です。柳澤さんの案内で、木橋の周辺に3か所のスィッチバック跡も確認でき、急な斜面上で苦しいながら軌道を延伸した状況が理解できました。

調査の最後に、林業遺産の保存活動を続ける理由を柳澤さんに質問したところ、「先人が英知を結集して残したものを、子供たちに伝え継いでいくことは、地元の大人の責務です」と答えて下さいました。ただし、保存に向けた地域の熱い思いとは裏腹に、野外の林業遺構群には、風化による劣化・消失の危険性が常に潜んでいます。実際、「片刈石ヒバ木橋」は元々2つの橋がありましたが、2015年8月頃に上流側の木橋が半壊しました。林野庁に加えて、地元関係機関・団体が知恵を出し合って、遺構群



「林業遺産」に選定された内燃機関車
中泊町博物館蔵

★参考文献
日本森林林業振興会秋田支部 青森支部編『近代化遺産
国有林森林鉄道全データ 東北編』秋田魁新報社
「樹林百年」編集委員会 樹林百年 青森宮林局の一世紀
「林野弘済会青森支部

を後世に受け継いでいく方法を検討することが望まれます。

「林業遺産」に選定されたこの他の遺構として、中泊町博物館で展示されている内燃機関車や、青森市森林博物館で展示されている客車「あすなる号」があります。そちらもぜひご覧ください。

現地調査に同行して下さった伊藤さん、柳澤さん、「小泊の歴史を語る会」の皆様にも心から感謝申し上げます。